

令和元年度第8回協働支援会議

令和元年8月2日（金）午後2時

新宿区役所本庁舎3階302会議室

出席者：藤井委員、関口委員、平野委員、土屋委員、松井委員、伊藤委員、長谷川委員、  
山田委員、平井委員、高橋委員

事務局：地域コミュニティ課長、大庭主査、武井主任、丹野主任

藤井座長 それでは、定刻になりました。第8回協働支援会議を開催いたします。

議事次第については、お手元に配付していると思います。

まず、定足数ですが、過半数を満たしているので会議は成立すると確認させていただきたいと思います。

それでは、まず資料の確認を事務局のほうからさせていただきます。お願いいたします。

事務局 それでは、皆様、本日はお暑い中をお集まりいただきましてまことにありがとうございます。資料の確認をさせていただきたいと思います。

まず、次第。そして、あとこちらカラー刷りの資料1と書いてある資料が、その1枚下にあります。

その1枚下に資料2ということで、こちらの報告書の案でございますが、こちらがございます。

以上次第を含めまして本日の配付物は3点でございます。過不足はございませんでしょうか。

以上です。

藤井座長 それでは、議事進行に移ります。まず最初です。令和元年度協働事業評価報告書についてです。評価報告書についての説明を事務局のほうからさせていただきます。

事務局 それでは、前回皆様にいろいろご議論いただきまして、今回修正をさせていただいたものがあるのですが、こちらの資料1と資料2が今回の評価報告書の議案の中で使うものになります。

こちらですが、本日内容については確定をさせていただきまして、9月9日に座長から区長に手渡していただくという流れになっております。

それでは、資料1について、ご説明に移らせていただきたいと思いますけれども、よろ

しいでしょうか。

藤井座長 お願いいたします。

事務局 それでは、皆様、こちらのカラー刷りの資料のほうをお手元にお出しいただければと思います。前回の協働支援会議で項目ごと、委員の皆様からご意見をいろいろいただきましたので、そちらを反映させる形でコメント修正案というものを作成させていただきました。

皆様からいただいたコメントに関してはご発言いただいた方と、そのコメントの要旨のほうをこちらの支援会議の指摘という欄にまとめをさせていただいております。

指摘を今やりますが、一応項目ごとに前回同様コメント欄を読ませていただくような形で進めさせていただきたいと思っておりますけれどもよろしいでしょうか。

では、1 ページ目の1、計画の部分を読み上げさせていただきたいと思っております。本年度の計画策定に当たっては、前年度に指摘した事業全体の進捗管理や目標達成に向けた課題・問題点の整理が行われ、事業計画に反映されています。

平成30年度は、ごっこんリーダーの活動継続が課題の一つでしたが、リーダーのモチベーションを維持する「リーダーの集い」を計画に取り入れたことは評価できます。また、新たな指標として最長発声持続時間を設定したことや、活動場所によっては使用できなかったDVDから、より安価で手軽に使用できるCDを作成するなどの工夫や改善も見られます。

さらに、講習会の参加のみならず、体操の継続及びごっこんリーダーの活動状況の確認を、指標として設定するなど、効果測定を行う上での改善も見られます。

一方、本年度は3年目の事業となることから、育成したごっこんリーダーへのフォローやさらなる地域展開に向けて具体的な対策を講じていく必要があります。ほかにも3年間を通じたごっこんリーダーの活動状況や波及効果を把握して、参加者への効果を把握する指標を整理し、提案事業終了後を見据えた本事業の展望・展開を考えていくことが必要です。

藤井座長 一つ項目についてご意見をお伺いさせていただきます。前回の会議での指摘を踏まえてコメントの修正案を1の項目です。計画について出されたわけですが、これについてご意見ございますでしょうか。

伊藤委員 伊藤ですけれども、今ちょっと読ませていただいたのですけれども、この最後の部分のところ。一方、本年度は3年目の事業となることから、以下があるのですけれ

ども、その一番後ろのところ、提案事業終了後を見据えた本事業の展望・展開を考えていくことが必要です。これを前に持ってきたらどうかと思う。一方、本年度は3年目の事業となることから、提案事業終了後を見据えた本事業の展望・展開を考えていくことが必要です。以下は一緒です。育成したリーダー、そうすると今度はずっと行くと赤字のところ参加者への効果を把握する指標を整理しで切れてしまうので整理する必要もある。もありますと、このほうがすっきりしているような気がするのですが、最初に結論を持ってきてしまったほうが。

関口委員 いいと思います。

藤井座長 今、伊藤委員からご提案で、このコメント修正案の最後のパラグラフのところを青字です。地の白地のところの文のそれを受けてまず一番最後、結論部分。このパラグラフの下から2行目の提案事業終了後を見据えた本事業の展望・展開を考えていくことが必要ですと入れて、それにつないで育成したごっくんリーダーへの必要があります。ほかにもとして、一番最後の文章の語尾を整理する必要もありますと、こういう形でしょうか。

伊藤委員 ですね。

藤井座長 いかがでしょうか。報告書としてはそのほうがいいような気がしますけれども、よろしいですか。

関口委員 はい。

藤井座長 そのほかはいかがでしょうか。鍵括弧はとれたのですが、この指標のところは何かやっぱり入れたほうがいいような気もするのです。鍵括弧で入れるのか、鍵括弧以外の記号は入れてはいけない、地の分に指標が本当にまじっているという感じがするのですけれども、いいですか。新たな、そうすると鍵括弧を復活になるのですけれども。新たな指標として最長発声持続時間。それと地の分の中にもう入ってしまうのですが、さらに、の講習会の参加。これも指標なのですよね。そして、体操の継続及びごっくんリーダーの活動状況、これも指標。でも、確かにこうすると最初の案と全く同じような形になるのでもいいか。

関口委員 いや、いや、座長がおっしゃるなら別ですが。

藤井座長 いえ、いえ、いや、いいか。

関口委員 ごっくんリーダーはとっていただければ。別に私も鍵括弧が憎いわけではないので。

藤井座長 ごっくんリーダーのはとったのですよね。

関口委員 ごっくんリーダーはちょっとあまりにもくどいのでとっていただければと思ったのですけれども。

藤井座長 ああ、確かに。

関口委員 ほかは別に必要があればつけていただいたほうがいいと思います。

事務局 では、指標の二つ、最初の最長発声持続時間とあと講習会の参加及び体操の継続及びごっくんリーダーの活動状況の確認の分に関しては、括弧をつけさせていただくという形で整理させていただきます。

藤井座長 よろしいですか。それでは、この項目1、計画についての修正案についてはよろしいでしょうか。

山田委員 はい。

藤井座長 では、ご了解いただいた、ご承認いただきました、これについて。

次に移ります。項目2、実施についてお願いいたします。

事務局 それでは、2になります。3年目の事業ということもあり、NPO団体と区担当課がそれぞれの強みを生かしながら、協働して事業に取り組んでいることは高く評価できます。年間スケジュールや事業の進捗管理表を作成するとともに、事業推進のためのプロジェクト推進会議を定期的を開催し、積極的な情報共有や対等の立場で意見交換を行いながら、事業を進めてきた状況が確認できます。

また、団体が進める手法によって、前年度よりリーダー発掘や地域での広がりが進むとともに、担当課の働きかけにより、区の進めるしんじゅく100トレ等の他の施策との融合が実現しており、互いの有する専門性を発揮し、協働による相乗効果があらわれる取り組みとなっています。

区民への普及啓発事業や講習会など、いずれも当初の計画どおり事業を進めており、目標参加人数を大きく上回る実施状況や、関係諸機関との協働により、区内で行われるイベントへの参加等につながりができたことは、想定以上の効果が出たこととして評価できます。

一方、受講者からのフィードバックの反映や、地域行事（祭り、納涼会、防災訓練など）をきっかけとした普及啓発活動の基盤づくりなど、今後を見据えた取り組みを進めていくことが必要です。また、幅広い年代への普及を考えた際に、小学校でのごっくん体操実施についても、食育や福祉教育などと合わせて行う工夫が必要であると考えます。

以上です。

藤井座長 以上の修正案についてご意見をお願いいたします。支援会議での指摘については反映されていることは確認できるのですが、改めてお気づきになることについて。

関口委員 では、一言いいですか。前回言っておけよという話なのですけども、NPO団体というのが、頭痛が痛い状態になってしまっているの、団体とするか、NPOとするかのほうがいいかなと思いました。

藤井座長 確かに。団体を抜くのがいいのか。

関口委員 団体にいいのではないですか。

藤井座長 団体にいいですか。

関口委員 はい。

藤井座長 NPOを削るのですか、団体を削るのですか。

伊藤委員 NPO。

関口委員 いや、NPOを削ったほうが、ほかのところにも団体。

伊藤委員 また、下のほうもずっと団体で来ているから。

藤井座長 ああ、はい。

伊藤委員 2段落目のところ、また、団体が進めるとなっているから、それでいい。

藤井座長 最初の1行目だけでしょうか、NPOが出てくるのは。そうですね、最初の1行目のNPO、これを削って団体にすると。うん、確かに。

ほかはございますでしょうか。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

関口委員 はい。

藤井座長 では、この項目2、実施については、コメント修正案についてご承認いただいた。修正箇所は1点です。最初の1行目、3年目の事業ということもあり、NPOとあるのを、これを削って削除して団体と区担当課がと。

それでは、続いて項目3、結果についてお願いします。

事務局 それでは、読み上げさせていただきます。

講座等の開催数や参加者数、ごっくんリーダー登録者数など、主要成果指標は当初の目標を大幅に上回ることができました。

事業参加者に対するアンケートでは、講習会の内容の理解度や誤嚥予防に対する意識の変化等の効果測定も行われており、参加者から高い評価を得ている状況も確認できました。

講習が行われる現場も一様ではないため、会場の環境に合わせた対応を実施し、参加し

やすい環境の整備に努めたと評価できます。

さらに、対象者の拡大に向け、デイサービスを支援している福祉職を対象に講習会を実施するなど、元気高齢者だけでなく虚弱高齢者の参加を図る活動も行われています。

新宿区全体に対する効果となると、短期間では達成が困難な面もあるかもしれませんが、期待の持てる結果が示されたと評価します。

一方、新たに指標として設定した、体操の継続状況やごっくんリーダー認定後の各リーダーの活動状況など、事業の実施結果について、十分に確認できていない部分があります。

また、アンケート結果からは、男性参加者が極端に少ないことが示されており、男性の本事業への参加を促すための工夫を行い、さらに多くの人に関心を持ってもらうことが必要です。

藤井座長 この最初の1ページ目のところの欄外の、上部の欄外ただし書きがありまして赤字、米印と赤字があつて、赤字は支援会議を受けての修正点、茶色は表現を事務局で見直した箇所とあるのですが、ここのコメント修正案では赤字。

事務局 茶色がかかって赤なのですが。

藤井座長 これは識別が何かやっかいになってきているのですが、この赤字、茶色字をちょっと言っただけですか。

事務局 赤字が、「講習会が行われる現場も同様ではないため、会場に合わせた対応を」までが赤くて、そこから先の「実施し、参加しやすい環境の整備に努めたと評価できます」の分が事務局修正案の部分、茶色になります。

藤井座長 茶色。

事務局 その先なのですけれども、元気高齢者以外の虚弱高齢者という表現になっていたところを「元気高齢者だけでなく虚弱高齢者の参加を図る活動も行われています」というところを事務局のほうで修整させていただきました。

藤井座長 ここが茶色ね。そして。

事務局 最後なのですけれども、下から、一番最後の段落です。「男性の本事業への参加を促すための工夫を行い」というところも表現を事務局のほうでちょっといじらせていただいたところになります。

藤井座長 新たには、これは。

事務局 新たには。

藤井座長 これは赤字。

事務局 これがアウトカム指標という単語を整理した流れで意味が通じるようにという  
ようなところがございます。

藤井座長 ということです。いかがでしょうか、文章も含めてですが。

伊藤委員 一つだけ。上から4行目のところの「事業参加者」と書いてあるのだけれど  
も、この事業というのは要らないと思うのだ。その前の一番最初のところで講座等の開催  
数や参加者数と出ているから、この事業の参加数だから事業という欄で出してしまってい  
い。

藤井座長 ほかに。今伊藤委員からはご指摘があったのは、コメント修正案の第2パ  
ラグラフの頭、事業参加者のこの事業をとると、いかがでしょうか。よろしいですか、ど  
うですか。

関口委員 いや、いいと思います。

藤井座長 よろしいですか。

事務局 こちらのページなのですけれども、1ページと同じように指標には鍵括弧をつ  
けさせていただいてもよろしいでしょうか。

藤井座長 いいんじゃないでしょうか、統一して。となるとどこになりますか。

事務局 まず上がちょっとくどくなってしまって、ここがちょっとくどくなってしま  
うのです。

藤井座長 なるほど、そうか、それだったら要らないな、やっぱり。

事務局 要らないですか。

藤井座長 伝線するけれども、最初のところは要らない。

事務局 要らないですか。

藤井座長 確かに。ちょっと言葉は悪いけれども、目ざわりになりやすい。要らない、  
やっぱり。

事務局 わかりました。このままでいきます。

藤井座長 ほかにいかがでしょうか。

関口委員 では、1個いいですか。これも前回言っておけよという話なのかもしれない  
のですけれども、この元気高齢者というワードは、これ一般的な元気高齢者、虚弱高齢者  
とか出てくるのですけれども、何か福祉の現場であなた、元気高齢者だねとかそういう感  
じなのか、いや、そうでなければ、定着していないワードだったら元気な高齢者とか虚弱、  
その後と対応させると虚弱高齢者は、まあまあ何かこうあると思うのですけれども。

伊藤委員 元気でいいんじゃない。

関口委員 何かこう、どうなのでしょう。私、専門外なのでよくわからないのですけれども。

藤井座長 どうでしょうか、そのワード、ワーディングなのですが。

伊藤委員 通常として使われているかどうかじゃない。そこを今使われているならそれで。

事務局 虚弱高齢者は使われて。

伊藤委員 使われているならそれでいいと思う。

山田委員 山田です。今伊藤委員からもお話がありましたように、通常使っているかどうか、行政用語として使っているかどうか、その辺をちょっと確認してもらって、例えば高齢者の福祉の計画なんかでそういう言葉を使っているのであればそのまま使ってもらっても構いませんし、あまりやっぱり練れていないなということであれば元気な高齢者とか虚弱な高齢者とか、それでいかがでしょうか。

関口委員 はい。

藤井座長 結構かと思います。それでは。

事務局 事務局のほうで確認いたします。

藤井座長 事務局のほうで確認してください。ほかに。やっぱり改めて見れば、見ると出てくるのですね。なるほどなと思うご指摘ばかりです。いかがでしょうか。

今お話が出たのは、この3の項目では4行目の第2パラグラフの頭の事業参加者の事業をとって参加者とする。そして、第4パラグラフの3行目、元気高齢者だけでなく虚弱高齢者の参加を図るところになっているのを、元気高齢者というのが行政用語として定着しているのか。用語として定着しているかどうかについて確認した上で、もし定着が見られないという場合は、形容詞として元気な高齢者、虚弱な高齢者に改めると、そういうことになります。

伊藤委員 伊藤ですけれども、青字のところのやつで、ちょっと読みづらいところがあるのですけれども。新たに指標として設定した、体操の継続状況やごっくんリーダー認定後の各リーダーの活動状況など、事業の実施結果について、十分に確認できていない部分があります。ここが何かすっきりしていないのです。ただ、指摘しているだけで、そこをどうするかというのが、ここ本当だったら入れなければいけないようになってしまうのだけれども、この部分、文章だと。



だから、ここをちょっと変えて、これを生かしてやるには、各リーダーの活動状況など事業の実施結果の確認が必要ですか。そうするとこっちで言って、それで終わるのでいいんじゃないかなと思うのですけれども。ただ、投げかけてしまっているだけで終わってしまうと。

藤井座長 なるほど。今ご趣旨はこのパラグラフ、「一方、新たに」のところですが、文末が「十分に確認できていない部分があります」というのは、現状の説明にとどまっていると。もう一歩前を出して結果、事業の実施結果の確認が必要だと。なるほど。いかがでしょうか。

確かに同じことを言うのですが、全くもう表現の問題で。いかがでしょうか。

関口委員 はい。

藤井座長 よろしいですか。そうですね。今よろしいですか、今読み上げなくて、改めて。よろしいですか。

今提案ありましたように新たな指標として設定した、体操の継続状況やごっくんリーダー認定後の各リーダーの活動状況等、事業の実施結果の確認が必要だと。

ほかに。よろしいでしょうか。それでは、3項目については、今言った点を修整することによってよろしいですか。承認いただきました。それでは、次の項目です。4番目の項目、改善について、お願いします。

事務局 これまでの事業の実施状況や評価の内容等を踏まえ、さらなる普及のため、CDの作成や歌詞幕を追加するなど、創意工夫がなされています。

また、定期的な講習会の実施を全区域的に行う検討に入ったことも事業改善の視点から評価できます。ごっくん体操を講習会時だけのもので終わらせないために、日常的に取り組める場をふやしていくことやごっくんリーダー自身の自主的な活動を支援することで活躍の場を広げ、その結果、継続的な取り組みが区内各地域に広がりつつあることも評価できます。

ヒアリングの際に指摘された参加者の女性への偏りや、ごっくんリーダーの活動状況の把握、講座参加・普及活動のインセンティブ設計など、今後の事業改善に向けての課題についても認識されている状況が確認できました。

一方、過去2年の事業の参加者に対して、その後の「ごっくん体操」の取組状況を確認し、フォローアップする取り組みや、「3結果」欄にも記載した、男性の参加者が極端に少ない中で、男性の参加者をふやす取り組みや男性に体操を行ってもらうための仕掛けづく

りを実施していくことが必要です。

また、本事業が根づいていくためには、地域の中で活動する団体や区・社会福祉協議会などとの交流・連携を一層重ねていくことも求められます。

さらに、今後、活動者に活動継続いただくためには、「楽しい」「自分が必要とされている」と実感できるような活動内容の工夫が必要です。

健康分野での協働事業でもあり、3年間で結果を出すのは難しい部分はあるものの、団体と区で知恵を出し合い、ヒアリングでの提案等も参考にさらに改善を図る必要があります。

藤井座長 以上です。この項目も修正されたコメントについてですが、前回の支援会議での指摘が反映されていることがまず確認できたのですが、ほかにご意見はございますでしょうか。

伊藤委員 ちょっと何か矛盾を感じてしまうのですけれども、私だけかもわからないのだけれども、5行目の「また」以降のところの定期的な講習会の実施を全区域的に行う検討に入ったことも事業改善の視点から評価できますというところと、この段落の一番最後のほうのその結果、継続的な取り組みが区内各地域に広がりつつあることも評価できます。これは検討段階に入ったというのと、実質的に今広がっていることと何かちょっと矛盾してしまうのではないかなと思うのですけれども。

もしこの下のを生かすとすると、上が要らないような気がしてしまうのです。その結果、継続的な取り組みが区内各地域に広がりつつあることも評価できます。上が要らないような気がしてしまう。

藤井座長 今伊藤委員のご発声ですが、この第2パラグラフのところです。第2パラグラフの最初のセンテンス、定期的な講習会の実施を全区域的に行う。検討に入ったということが事業改善の視点から評価できると。検討に入ったことが評価できるとしているけれども、このパラグラフのねらいというか、主要な眼目というのは、後半の最後のところでその結果以降、継続的な取り組みが区内各地域に広がりつつあることも評価できる。ここも「ことも」「ことも」となっているのですが、これは実際に継続的な取り組みがされているということの評価して、そのことを評価すべきで、強調すべきで、検討に入ったことというのはもちろん。

伊藤委員 もしこの上の文章を使うとすれば、全区域的に行う活動に入ったで、検討よりも活動に入った結果、それが広がっていったというのが。

藤井座長 なるほど。

伊藤委員 検討に入っているという、まだやっていないような気がしてしまって、その結果やらないのに広がっているというのになってしまう。

藤井座長 だから、検討に入ったというのが。

伊藤委員 検討が。

藤井座長 広がりつつというのとそこがあるのではないか。

伊藤委員 活動に入っていれば全区的にこう広がっていつていますねとつながりが出てくる。

藤井座長 よろしいでしょうか。定期的な講習会の実施を全区域的に行う活動に入ったことも事業改善の視点から評価できます。それを受けてというか、その結果、継続的な取り組みが区内各地域に広がりつつあることも評価できると並列的に並べて。

土屋委員 土屋です。そもそもなのですけれども、ここ、ごっくん体操を講習会のときだけのものに終わらせないために、日常的に取り組める場をふやしていくことやという、これって何か私は結局やっていないことのような気がする、実際そのごっくんリーダーの自主的な活動を支援することというのは、できていないことではないかなと思うのですけれども。

継続的な取り組みが区内各地域に広がりつつあるというのは、実際そうじゃないような気がするのですけれども。

藤井座長 いかがでしょう。これは活動の実態で、継続的な取り組みとされているけれども、その前提になって上げられているごっくん体操講習会だけで終わらせていない。日常的に取り組みをふやしていつている、ごっくんリーダーの自主的な活動も支援されると上げられているけれども、これは活動実態としてないのではないかと。

土屋委員 そう。何か前回は何かスラッと見て、ああ、そうかと思ったのですけれども、今考えるとちょっとそれはその前にあった結果のところでも、こういうことをやらなければいけないと書いてありました、あれ、どこかに、その前のときに。そういう場を広げていかなければならないというふうなのが、指摘がありましたよね。それとまた矛盾するのではないかなと思うのですけれども。

藤井座長 ああ、もうやっているから、そのターゲットに。

土屋委員 ええ、リーダーが活躍する場を今やっているというふうに書いてあるじゃないですか。

伊藤委員 伊藤ですけれども、多分今土屋さんが言っているようにこのごっくんリーダー自身が勝手ではないけれども、独自でやっているものは広がりつつあるけれども、そういうことを見ていったときに、これをごっくんリーダーの自主的な活動ではなくて、組織立った活動としてこのやっていく検討に入ったということでとらえればいいのだ。そういうことなのだ、多分、これ。

土屋委員 うん。ただ、ごっくんリーダー自身も。

伊藤委員 やっているところとやっていないところがあるだろうけれども。

土屋委員 ほとんどやっていないと思うのですけれども。

伊藤委員 やっていないのか。

土屋委員 自主的に自分の活動の中に取り入れてやっているというのは、本当に私の周りを見ても10人、20人ぐらいかなと思うのですけれども。まあ、わかりませんけれども、私は何かそういうふうに見えるのですが。皆さんリーダーになってCD、DVDはもらったけれども、実際それを教える場というか、披露する場というのがない。ほとんどないのです。

伊藤委員 では、この段落のところのごっくんリーダー自身の自主的な活動を広がりつつあると言ったらこれは現実だから、これは矛盾してしまうという話だよ。

土屋委員 うん、ええ。

伊藤委員 日常的に取り組める場をふやしていくことやごっくんリーダー自身の自主的な活動を支援することで活動の場を広げていく。ここまでがあれだよ、文章としては生きてくるよ。

では、もっと生かしていくと、広げ、その結果、継続的な取り組みが区内各地域に広がるのが期待できます。

土屋委員 そうですね、そうしたら努力。

伊藤委員 これ、事実じゃないのだ、今は土屋さんが言ったように。

土屋委員 ええ、ええ。

伊藤委員 とするならば、広がるのが期待できると、やることです。

土屋委員 そうですね、ええ。

伊藤委員 現場の実践者の意見ですから。そうなのだろう、多分。

土屋委員 そう、期待はできると思います、どんどんどんどん。

伊藤委員 そういうことなのだ、これは。

土屋委員 そのリーダーの数はふえているので。

伊藤委員 そのこのセンテンス、そのままとってしまうと、今いろいろなところでやって。

土屋委員 ええ、ええ、そうですね。

伊藤委員 出てきてしまっているという話だから。

土屋委員 評価はだからできないと思います。

伊藤委員 うん、そうよね。広がり期待できますで……入って、結果が出てくる。

土屋委員 はい。そのぐらいの表現の仕方であれば大いに期待できるところです。

藤井座長 これはどうなのですか、実際。ファクト等というか、実際どういう活動状況なのでしょうか、これまで出された確認できる資料。

事務局 一応協働評価の際に先方からお出ししていただいた自己点検シートという報告書があるのですけれども、皆様にお渡ししたつづりの大体82ページに団体のコメントがあるのですが、その団体のコメントの上から8行目のところに、特にリーダーが自分の生活スタイルの中で啓発活動を企画、実践し始めており、多様な場で自主的な活動が広がっている（小学校、区民コンサート、医療機関、長寿会など）ということで一応やってくださっているという記載はあるにはあるのです。

藤井座長 土屋委員。

土屋委員 その広がりが、だから大きくなく徐々に広がっているということですよ。だから、期待でいいですかね。

伊藤委員 やっている人はやっているけれどもという。

土屋委員 うん、そうですね。

伊藤委員 だから、それを全体的なものに持っていきたいという話でしょう。

土屋委員 うん。

藤井座長 では、ここの文章で修正するとしたらどういう代案になってくるのでしょうか、代案としては。

土屋委員 伊藤さんがおっしゃったように広がりつつあることも期待できますと、そのままいいのではないのでしょうか。

藤井座長 この文章それ自体は生かして語尾。第2パラグラフの最後の語尾を広がりつつあることも期待できます、評価ではなくて。

土屋委員 はい。実際に広がりつつあるので、その広がりがこうドーンとではなくて、もう本当に。

藤井座長 よろしい、どうでしょうか、いかがですか。今伊藤委員、土屋委員の。

高橋部長。

高橋委員 多分自主的な活動は広がりつつあるのだと思うのです。自主的にやってくださるところはやっている。その把握は不十分だということもご指摘いただいたとおりで、まだ全部は把握し切れていないのだと思うのです。こちら側の支援とか組織立った支援によってさらに広がるというところまではまだ行っていないと、そういう段階だと思うのです。

伊藤委員 そこが、そう、そう。

土屋委員 そうですね。

高橋委員 それを表現するとどうなるのかなとちょっと考えていたのですけれども、今その評価を期待に変えるだけだとちょっと厳しいかなと思ったのは、広がるのが期待できますならいいのですけれども、広がりつつあることが期待だと何か現実と希望とが一緒になってしまっていて。

藤井座長 なるほど。

高橋委員 地域に広がるのが、さらに広がるのが期待できますとか、そういう感じになるのでしょうか。

藤井座長 現在進行としてやるのではなくて、今後の。

高橋委員 広がりつつあるというのは事実なのだけれども、期待する、できますという表現で終わるのだったら、広がるのが期待できますのほうがいいかなと思ったのですけれども。

藤井座長 なるほど、将来発展性を加味する。そうしますと、継続的な取り組みが区内各地域に広がることも期待できますですか、広がりつつあるというのではなくて。広がる……。

高橋委員 広がるのが。

山田委員 広がるのが期待できますでいいんじゃないですか。

藤井座長 広がるのが期待できます。繰り返します。最後の文末です。継続的な取り組みが区内各地域に広がるのが期待できます。なのですが、いかがでしょうか、よろしいですか、結構いろんなことが出てきた。伊藤委員、土屋委員、いかがですか、よろしいですか。

関口委員 いいのですけれども、ここは評価点2のところなので、つまり低いのです。

ですから、私は黄色の部分が結構その割には多いので、つまりポジティブな評価が多いので、いっそのことここ2パラ全部削ってもいいぐらいなのかなとは思ってしまいましたけれども、それだとひっくり返してしまうのでいいです。

以上です。

藤井座長 なるほど、ここは評価点が低い。そうですね。ということで、僕側としては、まず今ご議論いただいた形でこのドラフトのこの第2パラグラフは残すことを前提にしますと、まずこのパラグラフの頭のところですが、また、定期的な講習会の実施を全区域的に行う活動に入ったことも事業改善の視点から評価できます。中を抜いて具体例が上がって、その結果継続的な取り組みが区内各地域に広がるのが期待できますということですか。いいのではないかと思います。よろしいですか。

松井委員 表現、細かいことなのですけども、下から二つ目のパラグラフのところ。さらに、今後、活動者に活動継続いただくために、最後の活動内容と「活動」がすごく多過ぎる感じがするので。

藤井座長 確かに。

松井委員 どれか削るといいのかなと思ってまして、実感できるような内容の工夫でもよさそうですと思うのですが、皆様のご意見をお伺いしたいです。

関口委員 いいと思います。

藤井座長 そうですね。では、どうしましょうか、松井さん。活動内容の最後のこの活動を削ると。最初の活動者に活動継続と。

松井委員 何か三つは要らないような気がするのですけれども。

藤井座長 二つは要る？

伊藤委員 二つは要るけれども、三つは要らない。

松井委員 いや、もう一つでも多かったです。

藤井座長 どうしましょうか。今後、どうでしょうか。

松井委員 活動者というのは要らないかもしれません。

藤井座長 要らないね、僕もそうだと思います。

平井委員 活動を継続していただくためには。

藤井座長 そうですね。

山田委員 さらに、今後活動を継続していただくためには「楽しい」「自分が必要とされている」と実感できるような活動内容の工夫が必要です。工夫が必要ですよというのの活動内

容もとってしまってもいいかもしれないですね。

松井委員 それも要らないかもしれません。

土屋委員 うん、そうですね。

藤井座長 ああ、すっきりしますね。では、ちょっと今、さらに、今後活動を継続していただくためには「楽しい」「自分が必要とされている」と実感できるような工夫が必要です。すっきりしますね。よろしいですか。

ほかにどうでしょうか。よろしいでしょうか。

関口委員 はい。

藤井座長 それでは、今の修正点、先ほど確認した第2パラグラフのほかに、今松井委員からご指摘のあった点、最後が二つ目のパラグラフで、さらに今後活動を継続していただくためには、そして中抜けで、と実感できるような工夫が必要です。活動内容を削るということです。

それでは、最後の総合評価の項目です。ここの修整案の読み上げをお願いいたします。

事務局 超高齢社会が到来し、「人生100年時代」への社会的な取り組みが進みつつある中、加齢とともに衰えがちとなる一方、人間が生きる上で欠かすことのできない「食べる力」を初めとした健康増進を目指す本事業は、高齢者のQOLや健康寿命延伸に貢献する重要な事業です。

3年目となる今年度までに、普及啓発活動の担い手となるごっくんリーダーの登録者数は216名までふえました。また、新宿区らしさも盛り込んだ新宿ごっくん体操のDVDやCDといったツールも完成し、講座やイベント等を通じた活動も地域的に広がりを見せ、協働による区民の摂食嚥下機能向上のための基礎づくりが順調に進んでいます。

計画策定や事業実施といった場面においても、団体と区との間で「事業推進のためのプロジェクト会議」が定期的開催され、積極的な情報共有や意見交換が行われた結果、フレイル予防を目的とした「しんじゅく100トレ」とのコラボレーションにも取り組むなど、高齢者のQOLや健康寿命延伸に向けて、ともに取り組む姿勢が評価できます。

さらに、ごっくんリーダー登録者数や講座参加者数といった主要成果指標は目標を大幅に上回っていることや、アンケート結果での講座参加者から高い満足度を得られている点も高く評価できます。

協働事業終了後に向けて、これまで取り組んできたごっくんリーダーの増員や地域的な広がり合わせて、今後は、リーダーの活動状況や、講座参加者のその後の活動を継続的



にフォローし、摂食嚥下機能の維持向上につなげていくことが大切です。また、活動のモチベーションを高め、継続的な取り組みに向けた活動環境の整備も求められます。そのためには、NPO団体と区担当課が、講習後のリーダーたちへの場の提供や講座参加後の活動データをしっかりと収集・検証することも期待されます。

現在、高齢者の健康に関するさまざまな取り組みが、社会福祉協議会、地域のコミュニティ団体によって行われています。これらの団体との協力により、地域の行事だけでなく、地域カフェや給食サービス、デイサービス等の活動場所に、本事業で養成されたごっくんリーダーが出向き、利用者とともにごっくん体操を行う等の積極的なかわりを持つ仕組みづくりが期待されます。

また、男性参加者が極端に少ないことへの対応等の改善や、動画サイトの活用、「しんじゆく健康ポイント」との連携等による、より多くの参加者を得られるさらなる仕組みづくりについて期待しています。

最後に、高齢者だけでなく若年層や子どもなどの幅広い世代が取り組むことができる、新宿区に根差した活動として本事業が発展・継続していくことを期待しています。

藤井座長 という。まず読み上げの中で確認できるのは、前回の支援会議で指摘をいただいた、高橋委員からご指摘をいただきました「健康寿命伸長」ではなくて「健康寿命延伸」に置きかえると。まずそこは変更されていることが確認できた。

それと、先ほど関口委員から、NPO団体というこのワードが、NPOをとって団体にする。これは第5段落、協働事業終了後に向けての上から9行目の頭です。ここはNPO団体と区担当課となっている。NPOをとるということになりますが、これは結構前回の支援会議でこの総合評価については、ここに示されていますように比較的多くのご指摘をいただいたわけです。

また、総合評価についての項目を委員コメントがもう結構たくさんあるということで、よりコメントの中で反映するよという分量がふえても、ふやしてもいいでしょうという、そういうサジェスションもあったと記憶しております。その点では若干内容がふやされたところも認められるわけですが、いかがでしょうか。

平井委員 座長、一つよろしいでしょうか。6ページ目の最後のところで、これは多分事務局が直したと思うのですけれども、一番最後の下から2行目、新宿区に根差した活動というのはどういう意味かというのと、一つが新宿区に根差したま活動というのはどういう意味なのでしょう。

藤井座長 これは茶色ですね。

平井委員 茶色だから事務局かな。

藤井座長 ご説明を。

事務局 評価コメントに一部記載がございましたので今回入れさせていただいたのですが、先ほどからいろいろとご議論いただいていますように地域的な広がりをもっともっと広がってほしいというふうな意見が、前回は支援会議の中から出ましたので、それに合わせて根差したというふうなことを、表現を入れさせていただいた。

地域コミュニティ課長 地域に根差したと同義で使っているのです。

平井委員 ああ、するとちょっと説明してくれないとわからないです。新宿区に根差したと、地域に根差したということか。地域に根差したなら地域に根差すと書かないと。

藤井座長 どうでしょうか。こうやって入れた、何か説明を入れたほうがいいですか。

平井委員 ええ。前のところに書いてあったりするのですよね。だから、この地域に根差したということは、このごっくんリーダーを中心に発展していくという話ですか。そうすると、ちょっと説明を少し入れたほうがいいのかもかもしれません。ちょっと全体のバランスもあると思うのですけれども。前の5ページのほうで協働事業終了後に向けてというところで、これまで取り組んできたごっくんリーダーの地域への活動が広がりとかずっと書いてあるので、そうすると少なくとも新宿区に根差してというよりも、地域に根差したというような形のほうが。

藤井座長 なるほど、というご意見ですが、いかがでしょうか。

関口委員 はい。

藤井座長 皆さん、よろしいですか。そうですね、唐突にパッと出てくるよりも、地域に根差したのが、根差すのが確認すると。

平井委員 それとその上のところでやっぱり「最後に、高齢者だけでなく若年層や子ども等幅広い世代」というのは、何となくわかるのですけれども、その理由ですかね。これこれこれ、こういうことから子どもとか若年層にも根差したというのがある説明があるとわかりやすいと思うのですけれども。ちょっとこれも唐突に出てくるので。

今まで前段ではそういった話というのは全くないですよ。ないですよ。なぜここで急に若年層や子どもというのが出てくるのか。

事務局 一応総合評価ということなので、今までの1から4までの項目を一応拾うような形で書かせていただいたのですけれども、2番目の実施のところでもごっくん

体操をしているみたいな話にも触れておりまして、これもその欄に全世代的な取り組みみたいな観点から入れさせていただいたところですので、ちょっとそれも受けてということでごちらにそのまま入れさせていただきました。

平井委員 そうすると一応これは独立として、この総合評価だけ独立的に見なくてはいけないと思うので、少し説明を入れたほうが良いと思います。

藤井座長 今平井委員からのご指摘というのは、特に一番最後のパラグラフですから、結論の結論になってくるからちょっとよく考えたほうが良い。

平井委員 ここは独立して最後の結論だから。

藤井座長 ということです。それでご指摘は二つあって、まず一つが新宿区に根差した活動とこう書いてあるけれども、それまでは地域に根差したということだと言われているので、ここで新しいフレーズで言うよりも最後の結論部分になるので今までの用語、フレーズの一つを使われたほうが良いという。それで新宿区に根差したというよりも、新たに地域に根差したとされたほうが良いということ。

それともう1点は、その最後の頭のところです。高齢者だけでなく若年層や子ども等の幅広い世代。幅広い世代ということなのですが、ここで具体的に高齢者のごっくん体操なのですが、若い世代や子どもたちというこういう具体的な世代のこれが出てくるというのも、先ほど趣旨はご説明されているのですが、もうちょっとここ唐突にというか、こう世代論が出てくるので、もうちょっとご説明をしたほうが良いのではないかと。

平井委員 総合評価は総合評価でちょっと独立してきますので。

藤井座長 どういう形になりますか。どう、案は出ますか。

伊藤委員 伊藤ですけれども、今のところですけども、高齢者を対象としたごっくん体操であるがという頭を持ってきて、今後。

関口委員 ならもうカットでいいのではないですか、これ、もともと若年層は。だって、高齢者の方がフレイルというか、嚥下が、機能が低下するからそれを予防するためにやっているのであって、子どもたちはそもそも嚥下機能が低下していないのだから、基本的にはやる必要はないですね。

たしかヒアリングのときの指摘は、小学校とかで子どもたちがやって、それをじいちゃん、ばあちゃんとかに。

伊藤委員 一緒にやったら。

関口委員 一緒にやらないという。つまりそのきっかけづくりのタッチポイントをふや

すという話だったような気がしているので。

伊藤委員 うん、そう。

関口委員 子どもたちにもうみんなでごっくん体操をやろうという趣旨ではなかったと思っ  
ているのですけれども。

伊藤委員 そうだ。

関口委員 だってやる必要ないでしょう、もう基本的には。

伊藤委員 歌は広めてもいいという話はあったけれども、新宿区のあの歌は。

高橋委員 おっしゃるとおりだと思うのですけれども。やっぱり子どもたちがやること  
で、みんな知っているという環境をつくることで高齢者に届くようになるという、そ  
ういう趣旨だったと思いますけれども。

山田委員 山田ですけれども、もう片方の資料2が実は報告書の構成になっているので  
すが、8ページからが本事業の評価結果というところで、実は報告書のほうに行く  
と総合評価がまず最初に出てきます。こうした報告書のたてつけからすると、平井委員  
が言われたようにここに高齢者だけでなく若年層や子どもなどのということが出てく  
るとすると、丸々なことから、要は幅広い年代に対しての仕掛けをつくっていくこと  
も必要ですみたいなやっぱり理由めいたものが一つ入っていないと、報告書は前  
から読んでいきますから、ここがすごく唐突な感は否めないのだというふうに思  
います。

それであえて入れるのであれば、この「最後に」はさておいて、ついて期待して  
いますと。より多くの高齢者に参加をしていただくためには、高齢者だけではなく  
若年層や子どもを通して幅広い仕掛けをつくっていくことも必要ですみたいな何  
かその手の言葉が入ってきて。

伊藤委員 そう、そう、そう。

山田委員 その上で本事業については、今後さらに発展・継続していくことを期待  
しています。とめの言葉は、多分一番最後の言葉としてこれは残しておいたほう  
がいいのだと思うのです。その上でもう1回戻したときに。

藤井座長 なるほど。

山田委員 その幅広い世代にということはこの総合評価のところに入れる必要  
があるかどうかというところは、もう一度皆様で議論していただいて、ついて  
期待しています。バツサリ切ってしまうのであればその後、ついて期待して  
います。段落を変えて本事業が発展・継続していくことを当委員会としても  
期待していますとか何か。何かそのぐらいで

とめてしまってもよろしいのかなど。

藤井座長 さて、どうでしょうか。

伊藤委員 とるか、とらないか。

藤井座長 どっちかに、この事業の目的は、高齢者の嚥下機能を向上させるということが、このごっくん体操のそれが1丁目1番地でそれが事業の支援。ここで最後、幅広い世代へと言及されて、最後の事業の発展・継続につなげられた最初のまぐらのようなのですけれども、どうでしょうか。

平野委員 こちらの団体が出している企画書なのですか、これ。配付資料の16ページの最後の提案事業終了後の事業の展望・展開ということで、これ下から6行目ですか。ごっくんリーダーに書いてあるのは、提案事業終了後の事業の展望・展開の中に「ごっくんリーダー」の活躍とともに、歌って踊る嚥下体操の認知度を高め、さまざまな地域活動、行事の中で住民が気軽に歌い、踊れるように、また日々の生活の中に浸透していくように引き続き活動を推進していきたいと考えている。ラジオ体操のように長く愛され、誰もが知っていて、歌い、踊れる体操。こう育てる云々が書いてあるから、だから子どもから高齢者ということで締めてあるのかなと私は思うのです。

藤井座長 なるほど。

平野委員 おっしゃったとおりの歌ということですね。歌という意味ですね。

藤井座長 なるほど。先ほど山田委員からもうちょっと説明を入れて、最後の本事業が発展・継続していくことを期待していますにつなげられるところはあるのですけれども、唐突に平井委員がおっしゃったように、最初の問題提起で唐突に出てくるので、出すのだったらもうちょっと説明をしたほうがいいと。

その説明については、今平野委員からおっしゃったように、この団体の今後の展望・展開というここで行われていることも入れれば、きれいにバツサリ切るということもこれは一つの選択肢だけれども、最後の締めについてはいいのではないかとということですが、いかがですか。

ちょっと両論を見て、つくって、そしてこう比較して、どっちがいいかというのを改めて見ましましょうか。オール・オア・ナッシングなのですから、一、ゼロなのですから。

関口委員 いや、もう日程的にはきょう決めですよ。

伊藤委員 うん。

事務局 そうですね。

関口委員 あとはだからもう座長一任で。

藤井座長 そういうことでよろしいですか。僕も必要ないかなと一瞬思ったけれども、でも平野さんのご指摘を見ると、ああ、ここでこういうふうに言っているのだったら、ちょっとつけ加えてあげてもいいかなと思っているのですが。

では、ご一任いただけますでしょうか。では、ありがとうございます。

ほかにこの総合評価についてのところでご指摘、ご意見はございませんでしょうか。

平井委員 一ついいですか。また今のところなのですけれども、最後の本事業が発展・継続していくことを期待していますとこの委員会ではこういうことであって、事業者のほうも提案終了後の展望・展開なのですけれども、あくまでもこの協働事業の中でのということで、立場上ちょっと言わせていただきますけれども。

ということでご了承いただきたいと思います。立場上言わせていただきます。ちょっとまだわかりませんので。

藤井座長 議事録にとどめて。

関口委員 期待するのは勝手だと、期待。実施するとは言っていない。

伊藤委員 団体がやる活動として継続していけるという意味にもとれるから。

関口委員 そう、そう、そう。どっちがやるとは書いていないのです。

伊藤委員 そう、書いていない。

平井委員 玉虫色で結構です。

藤井座長 ここの茶色の部分ですよ。事務局のほうで改めて。

高橋委員 この前健康寿命の延伸のところでは気がつかなかったのですけれども、2カ所出てきている。最初の段落の下から2番目のところにまずQOLや健康寿命延伸と出ていまして、その後の3段落目の下から2行目にQOLや健康寿命延伸とあるのですけれども、健康寿命延伸と来るとQOLの後に「向上」というのを入れないと何かバランスが悪い気がしまして。

藤井座長 ああ、なるほど。QOLの向上。

高橋委員 ええ、QOLは延伸とは言わないので、QOLの向上や健康寿命の延伸というふうにとちょっと変えていただけたら。

藤井座長 1パラグラフのQOLの前もQOLの向上や健康寿命延伸。3段落目の最後から2行目のここもQOLの向上。

高橋委員 「の」を入れるかどうかはお任せします。

藤井座長 QOL向上。

高橋委員 どちらでもいい。健康寿命も健康寿命の延伸と言ったりしますけれども、どちらでも合わせていただければ。QOLの向上や健康寿命の延伸にと「の」が二つも入ってしまうのですけれども、どちらも省略してQOL向上や健康寿命延伸でもいいと思います。

藤井座長 おっしゃるとおりですね。これもご一任いただいてよろしいですか。

関口委員 はい。

藤井座長 ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。伊藤さん、何か。

伊藤委員 何かいいのですけれども、普通何かQOLだとか言うときによく使うのが維持向上と維持が入って、現状を維持するというのと、向上だけにすると何かみんなすくなくなってしまうのかなと思っただけで、維持向上というのはどうかと思っただけで。

高橋委員 確かにそうですね、高齢者。

藤井座長 そうですか。では、今高橋委員からご提案があった向上を加えて、新しくそうですね、そういうことですから。伊藤委員からおっしゃった維持向上ということです。

全体として最後の総合評価の項目についてもちょっとご意見がないようでしたら、これで合意いただいたと。若干センテンスの選択については、後でご一任をいただいたと思っているのですが、そのように取り計らってよろしいでしょうか、改めて全体的に。

関口委員 はい。

藤井座長 それでは続いてこれは説明、資料2か、のほうです。評価報告書、実施3年目、これについての説明をお願いいたします。

事務局 では、引き続き報告案についてお話しさせていただきます。手元にございます資料2になります。前回お配りしたものと違いとしましては、前回こちらのコメントが入っていなかったもので、ページ番号で言うと8ページから12ページまでに、先ほどちょっとご議論いただいた案のものを入れさせていただいております。

これに合わせて13ページ以降の部分に、こちらの自己点検・相互検証シート及び18ページから前回6月25日に実施しましたヒアリング時に事業課、団体様からご提出いただきましたヒアリングの資料のほうを添付資料としてつけさせていただきます。

本日皆様から議論いただきました修整の部分を除いては、この一式のものの体裁で報告書という形でお出しをしたいなというふうに考えております。なお、座長コメント、2ペ

ージのところのコメントに関しては、今座長と調整中という形になっております。

加えまして9ページのところ、前回の会議の際に関口委員よりいきなりいろんな用語が出てくるので、用語に関する注釈をつけてほしいということがありましたので、用語集と題しますか、注釈と題しますかは別なのですけれども、一応用語について幾つか上げさせていただいております、こちらの用語に関しても今健康部さんのほうに内容の確認のほうを依頼をしているところでございますので、最終的には向こうのチェックの入ったものをこちらに載せるという形になります。

藤井座長 これは用語集じゃなくて用語説明で。

事務局 用語説明ですかね。

伊藤委員 QOLのところはクオリティ・オブ・ライフと入れておいたらいい。

事務局 はい。

藤井座長 この体裁でよろしいでしょうか。

関口委員 はい。

藤井座長 内容については、もうほぼ今資料1のここについてご議論いただいたことを反映させるということになります。細部についての今もお話しいただきましたが、訂正につきましては、お気づきのことがあれば事務局のほうに言っていただいて、あと最終的には、私と事務局のほうで調整をさせていただきますので、そのように取り計らってよろしいでしょうか。

関口委員 はい。

藤井座長 はい。それでは、ありがとうございます。

それでは、以上で本報告書の審議をこれで終えるということになります。

もう今回、第8回協働支援会議については以上ですか。

事務局 以上になります。

藤井座長 それでは、以上をもって閉会させていただきます。今日も本当にお暑い中ご参集いただきましてつつがなく済みました。ありがとうございました。ご協力ありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。

— 了 —